

公益社団法人日本放射線腫瘍学会

2023年度（2023年9月1日～2024年8月31日）事業計画書

1. 学会等の学術的会合の開催 及び 学術研究等の支援

- 第36回学術大会を2023年11月30日～12月2日、パシフィコ横浜ノース（横浜市）にて開催し、第36回学術大会報文集を発行する。
- 第26回小線源治療部会学術大会（2024年5月24-25日）、第61回生物部会学術大会第52回制癌シンポジウム（2023年5月17-18日）、第37回高精度放射線外部照射部会学術大会（2024年3月2日）を開催する。
- 国際関連
 - ◇ 欧州放射線腫瘍学会（ESTRO）とのMOUに基づき、第37回学術大会における合同シンポジウム開催準備を行なう。
 - ◇ 米国放射線腫瘍学会（ASTRO）への活動支援のため代表の派遣とMOU締結を行う。
 - ◇ アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）への活動支援のため代表の派遣、事務局支援を行う。
 - ◇ 日本放射線腫瘍学会（JASTRO）、韓国放射線腫瘍学会（KOSRO）、中国放射線腫瘍学会（CSRO）の3カ国放射線腫瘍学会合同シンポジウムを行う。（FARO韓国にて同時開催）
 - ◇ 日本・台湾放射線腫瘍学シンポジウム（2024年8月17日北海道）の開催を支援する。
- 放射線医学・治療の学術・医療技術の相互理解を深めるため、日本緩和医療学会、日本放射線影響学会、日本核医学会との合同シンポジウムを開催する。
- 優れた学術研究・研究課題の選出を行い、その研究支援の一部及び論文投稿の助成を行う。
- 放射線腫瘍学の研究等を目的とした外部団体に対して助成を行う。
- がん放射線治療看護セミナーの開催の支援を行う。
- 研究者等の奨励を目的として、阿部賞・梅垣賞の顕彰事業を行う。
- 放射線治療における優れた研究成果を広く還元することを目的として、関連する他領域の学術団体での発表を支援し助成する。
- 医師・メディカルスタッフ（診療放射線技師・医学物理士・看護師）の海外留学・研修の支援事業を行う。

2. 学会誌等の刊行

- 機関誌（英文の研究論文集”The Journal of Radiation Research”）を年度計6回オンラインにて発刊する。
- 世界に向けて広く発信する英文機関誌の普及・向上を目的として、Highly cited award、優秀査読者賞、JRR誌優秀論文賞の顕彰事業を行う。
- ニュースレターを年4回刊行する。

3. がん等の放射線治療についての普及、啓発活動

- 放射線治療についての理解・普及を目的として、放射線治療 PR 活動（コミック、動画等の作成・利用）を実施する。
- 当学会ホームページに一般向けのコンテンツ・動画を掲載し、情報提供を行う。
- がん放射線治療の最新情報の広報活動として、プレスカンファレンスを行う。
- 緩和的放射線治療の普及のため一般・患者さん向けリーフレットの配布を行う。
- 医学生・研修医向けにレジナビメール配信や動画、パンフレットを配布し、広報活動を行う。
- 医学生・研修医の自己啓発の場として、医学生・研修医のための放射線治療セミナー（東京・大阪・WEB/2024年7月）を開催する。
- 転移性脊椎腫瘍に対する体幹部定位放射線治療の普及を目的として、教育資料の掲載・ハンズオンセミナーの開催（2024年3月）を行う。
- 新たな小線源治療技術の普及のため、小線源治療手技の動画コンテンツを掲載する。
- 新たな MR 画像誘導即時適応放射線治療の普及、研究推進のためセミナーを実施する。
- 緩和的放射線治療のより効果的な普及を行うため好事例集を作成し、全国自治体・医師会等へ配布を行う。
- 骨転移への緩和的放射線治療の医療経済評価を行い、緩和的放射線治療の啓蒙のための資料を作成する。
- 地域等の放射線治療の進展を目的として、地域貢献賞の顕彰事業を行う。

4. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

- 放射線治療従事者への教育を目的として、教育講演を行い、講義コンテンツを掲載する。
- 先達の症例スライドや資料を会員専用システムにアーカイブ化し、教育に活用する。
- 専門性に特化した教育的事業として、第 14 回放射線生物学セミナー（2024年3月16日）、第 12 回放射線治療物理学セミナー（2024年6月）、第 25 回放射線腫瘍学夏季セミナー（2024年8月3-4日）を行う。
- 国際レベルの放射線治療標準化を目的として、日本において教育セミナー ESTRO School（2024年6月21-23日）を共同開催する。
- 細胞・分子レベルの放射線治療標準化を目的として第 5 回 RI 内用療法セミナー（2024年3月）を実施する。
- 小線源治療技術教育のため第 2 回小線源治療ハンズオンセミナー（2023年10月14日）を開催する。
- 粒子線治療に関し、先進医療の枠組みで治療患者の全例登録を行うとともに臨床研究を推進する。また、先進医療実施施設への施設訪問を行う。粒子線治療全例登録（統一治療方針）によるエビデンス創出に努めるとともに、システムティックレビュー等も行い、さらなる保険収載を目的とした活動を行う。

- JASTRO 用語集・略語集のメンテナンスを行う。
 - 治療計画標準化を目的として、放射線治療計画ガイドライン 2024 年版発刊準備を行う。
また、放射線治療が関係する各種ガイドラインの作成委員派遣及び査読・外部評価を行う。
 - 放射線治療専門医認定
 - ◇ 2024 年より日本専門医機構サブスペシャリティ領域認定の放射線治療専門医の試験実施および認定作業を行う。放射線治療専門医の更新については当面学会認定で作業を継続する。
 - ◇ 日本専門医機構サブスペシャリティ領域認定の研修カリキュラム申請システムを運用する。サブスペシャリティ領域治療専門医の更新規準の策定等の準備を行う。
 - 放射線治療症例の診療内容を調査することを目的として、全国放射線治療実態調査(症例)を実施する。
 - RI 内用療法症例データベースのプラットフォーム構築を行う。
 - 安全かつ高精度な放射線治療の推進を目的として定める基準を満たす「日本放射線腫瘍学会認定施設」の審査・認定を実施する。
 - 第三者出力線量評価認定施設及び第三者出力線量評価認定機関の審査・認定を実施する。
 - 放射線治療装置品質管理業務 (Machine QA) の推奨シナリオの作成・公表のため、現状把握を目的とした施設向けアンケート調査を実施する。
 - 安全な放射線治療を推進することを目的として、アクシデントの事例の原因を調査・解析し、注意勧告を行う。また、依頼のあった第三者調査を実施する。
 - 医療安全のため AAPM TG-275 レポートの翻訳本の配布を行う。
 - 放射線治療における診療の質指標 Quality Indicator を用いた WEB 解析システム適応拡大による調査の実施。
 - 物理技術専門職関連団体との連携による治療計画業務タスクシフト等の課題解決にむけての検討を行う。
 - 放射線治療に関する診療報酬制度の適正化と追加・修正を検討し要望活動を行う。そのための様々な医療技術について費用対効果分析を行う。
 - 強度変調放射線治療 (IMRT) と高精度放射線治療 (SBRT) の標準化を目的として、WEB 実態調査を行う。
 - 放射線治療の体系的な分類のため放射線治療診療行為コード作成を行う。
 - 適切な放射線治療の提供体制の検討と提言を行う。
5. その他当法人の目的を達成するために必要な事業
- 放射線治療領域における AI-研究用データベースシステム構築を行う。
 - ダイバーシティ推進のため、代議員選挙制度の見直し、及び環境整備を行う。